

2021年12月25日（土） 忘年登山 高尾山（599m）

令和3年掉尾の忘年登山として高尾山を選びました。

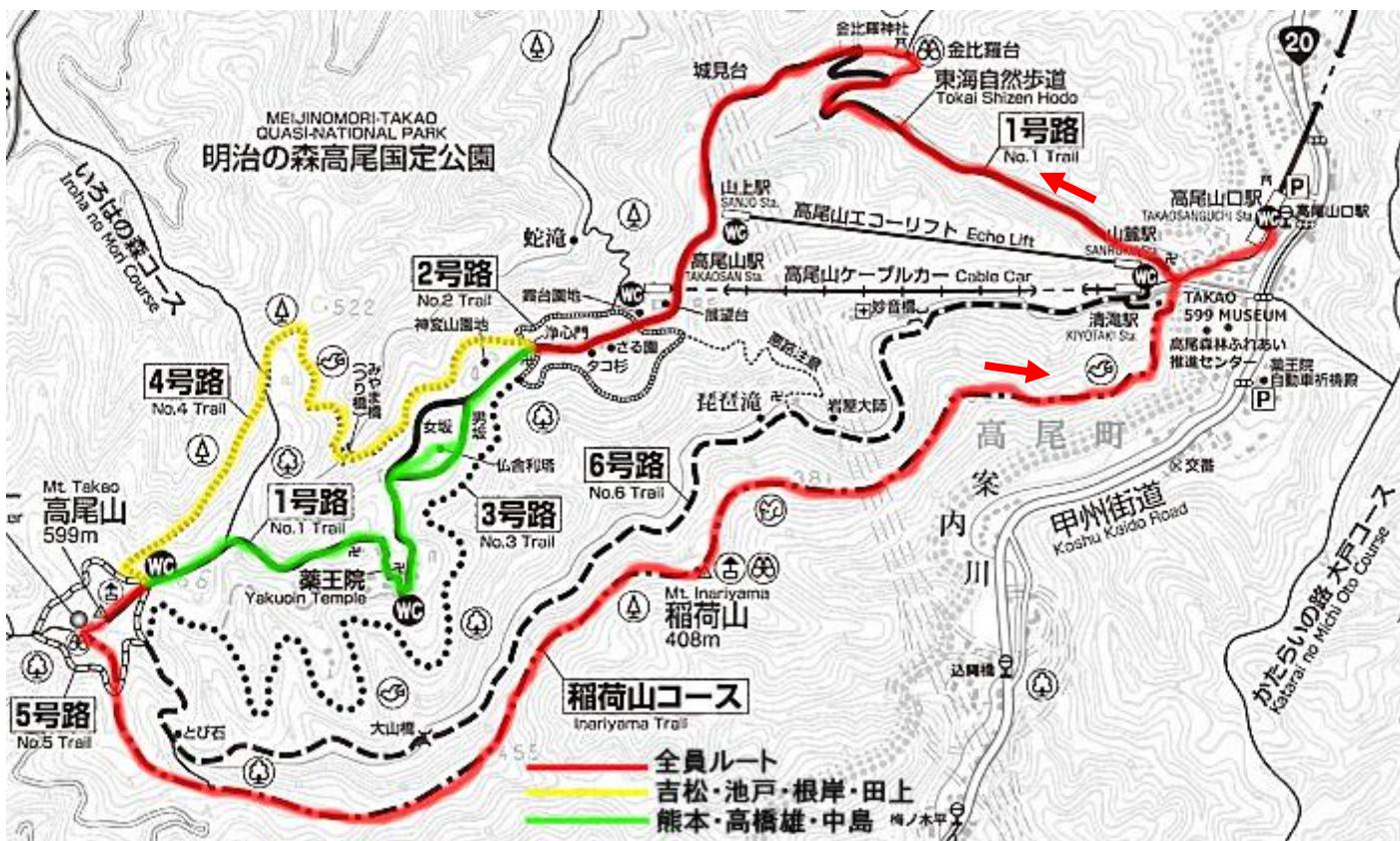
今年はコロナ禍で始まり、同じくコロナのオミクロン株騒動で終わろうとしています。クマさん会活動にも随分影響がありました。予定していた登山が幾つも中止や延期のやむなきに至りましたが、何よりもクマさん会の25周年企画が組めませんでした。

そんな令和3年ではありましたが、今年最後に比較的アクセスが良く手軽な登山が楽しめる高尾山を選んで、富士山の勇姿を眺めようと企画しました。のんびりした4時間ほどの山歩きです。

ルートは、表参道・4号路・稻荷山ルートと表参道・薬王院、不動堂・稻荷山ルートの2ルートです。

参加者は熊本さん、池戸さん、根岸さん、雄さん、田上さん、中島さん、そして吉松の7人です。

レポート：吉松、浄心門からの1号路部分は高橋(雄)



8時30分

京王線高尾山口駅に集合

熊本さんは30分前には到着していた模様
リーダーの吉松は10分前に、中島さんは
ギリギリに集合場所に到着

2人は急いで足のストレッチを行った。

（空を見上げて踊っているかのような中島さん
さんのストレッチ体操を、熊本さんと田上さん
さんが不思議そうに凝視・・・）





本日の7人、そろい踏み



駅横の商店街を抜けて、表参道入口の不動院へ向けて出発



ケーブルカー乗車駅の清滝駅を左に、不動院を右に見ながら、我々は表参道ルート入口に進んだ。



表参道を歩く人は少ない。

歩き始めは比較的緩やかな傾斜が続く。



15分ほどでヘアピンカーブを大きく右に曲がり、一気に勾配がきつくなる



急勾配が尽きるところで小休止

かなり身体が温まってきた。



小休止の場所を左に折れれば山頂へは近道なのだが、我々は真っ直ぐに金比羅神社のある金比羅台に向うことにした。

アスファルト舗装が途切れて、少し山道らしくなってきた。再び急登だ。



9時過ぎに金比羅台到着



ここからは都心の眺めが良い。

すぐ近くには、金比羅神社が建立されている。



靄がかかっていたが、暫く都心のビル群を眺めてた。



9時10分

石仏を右に見ながら参道を進んだ。



参道は再び舗装道に。

「山と高原地図」によれば、この道は高尾山線と言うらしい。



9時30分
ケーブルカーの高尾山駅に到着
標高480m

ケーブルカーという文明の利器を利用すれば5分で来られるところを、我々は小一時間ほど歩いて来たことになる。



少し進めば、有名なタコ杉に出合う。

樹齢約450年、高さ37m、幹周り6m



たこ杉の脇には、「開運 ひっぱり蛸」
頭をなでると、運が開けるとか！
＊木の保護のため、触ったり根に登ったり
するのを避ける為に設置したそうだ。



9時40分
浄心門に到着

ここからはそのまま1号路を進む熊本さん、雄さん、中島さん組と、4号路を歩く池戸さん、根岸さん、田上さん、吉松組に分かれた。



* 4号路組は浄心門で右に折れて舗装されていない道を進んだ。



4号路は静かで他の登山者とすれ違うこともほとんどなく、山に来たという気持ちになる。



アップダウンも余り無い道を、鳥の声と木々の葉の擦れ合う音に耳を澄ましながら歩いた。



9時55分

高尾山で唯一の吊り橋「みやまばし」に到着



4号路でただ一つの見所か？



みやま橋を渡ると、山頂までは少し登りとなる。

10時12分

いろはの森分岐地点の少し手前で一息入れて、あとは一気に山頂へ向った。

*10時29分

1号路組が既に山頂で待っていてくれた。

浄心門から引き続き 1号路組(by 高橋雄)



9:48 熊本さん、中島さん、雄（私）の3人は浄心門から引き続き 1号路で山頂へ向かう。中島さんは高尾山は初めてなので、高尾山の代表的見どころを巡るメインルートを選んだ。

写真では根岸さんも写っているが、根岸さんはこのあと池戸さん、吉松さん、田上さんとともに別ルートの4号路で山頂へ。



1号路は浄心門からほどなくして男坂と女坂に分かれ。我々3人は男坂を選んだ。
男坂は108段の石段だ。
ゆっくり登った。



108段の石段を登りきると、1号路の右手には、男坂と女坂の間にある仏舍利塔へ上がる「三密の道」がある。これも階段だ。仏舍利塔も見どころの一つなので、中島さんと私は三密の道を登る。熊本さんは階段は膝に負担がかかるとして敬遠し、そのまま1号路を進み、薬王院で落ち合うことにした。



三密の道は修行の場でもある高尾山の隠れたパワースポットだそうで、三密とは真言宗の教えにある「身密(しんみつ)・口密(くみつ)・意密(いみつ)」のこと、正しい行い・正しい言葉・正しい心を心がける修行のことを指す言葉。三密の道の両端2箇所にあるのが「苦抜け門」。「苦」の字が彫られた石造りの門を「苦しみから抜けられますように」と願いながらくぐることで、煩惱から解放されるとされている。



9:53 三密の道の石段（五十四段）を上りきると仏舍利塔がある。
仏舍利塔とはお釈迦様の遺骨を納める仏塔。タイ国王室より伝来の釈迦御真身の尊き仏舍利が奉安されている。、

仏舍利塔の周囲にはいろいろと戒めの言葉を刻んだ 5 つの門が配置されており、これらの門を潜り抜けて一回りした。→

↓

下の訳は、左から

- ・男女の道を乱さない・うそをつかない・無意味なおしゃべりをしない・乱暴な言葉を使わない・筋の通らないことを言わない・欲深いことをしない・耐え忍んで怒らない・まちがった考え方をしない



仏舍利塔から 1 号路の男坂・女坂合流地点に出たところでだんごを売っていた。
これも高尾山名物。
中島さんは黒ゴマ団子を買った。朝食を食べてこなかったそうで、その替わり。
私は金ゴマだんごをほおばる。



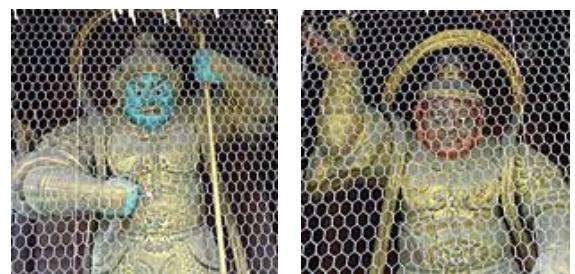


同じころ熊本さんは
9:54 天狗の腰かけ杉を見ていた。

高尾山の守り
神、天狗がこの
杉に腰かけて、
参拝者を見守
っていると伝
えられている。
樹齢はなんと
700年



10:01 薬王院の山門、四天王門。
門の前面に右には持国天、左には増長天が配
されている。持国天は阿、増長天は吽、左右
で阿吽（あうん）をなしている。



門の後面には多聞天・広目天が安置されてい
る。

四天王門に入ったところで熊本さんに追いつ
いた。

ここにもパワースポットがある。
「願叶輪潛(ねがいかなうわくぐり)」



本尊の知恵の輪とされる大きな石の輪をくぐり、その奥にある大錫杖(だいしゃくじょう)を鳴らすことで願いが叶うと言われている。



さらに蛸を奉っているところもあった。
前の台の上の木彫りの蛸を持ち上げ、
置くとパス（合格）するという。
合格祈願！だそうだ。(*^▽^*)



←そしてさらに石段を
登っていよいよ薬王院の
本殿へ。

10:08 本殿の山岳信仰の
飯縄大権現へ一心不乱に
○○○○を祈願する中島
さん→

寿命長久？身体健全？
世界平和？疫病退散？

· · · ·



←本殿の左脇から
またまた石段を
上がって山頂を
目指す。
私は一か月前に
紅葉狩りに来て
ここを上がったが、
その時は大渋滞。→
←今日は我々だけ。
大違い！





急な石段を上がりきると緩やかな木道となる。



二股に成長した杉の巨木もあった。



10:24 山頂下のトイレに着いた。
ここはなんと二階建て！
二階は混雑時の女性専用だ。
しかも男女とも個室は全てウォシュレット！！
ミシュランガイドで最高ランクの三ツ星に輝く高尾山。登山数世界一に恥じない設備だ。



10:28 山頂到達。

4号路組の池戸さん、吉松さん、根岸さん、田上さんの姿は見当たらない。
どうやら我々の方が早かったようだ。



するとほどなく
10:29 池戸さん、吉松さん、根岸さん、田上さんも現れて無事合流。



めでたく全員で恒例の登頂写真と相成りました。



山頂広場の茶店の近くのテーブルを占領し、
熊本さん持参のワインで乾杯。
その後吉松さん持参の日本酒なども参戦し、
例によってみんな結構いい気持ちになった。



中島さんと私は茶店でとろろそばを注文。
これも高尾山名物。
まだ 11 時前だったので、店は開けたばかりで注文札は 1 番。



厨房も立ち上がるのに時間を要したようで、出来上がるまでに 15 分ぐらいかかった。@1100 円で、安くはなかったが、麺の太さが不揃いのところをみると、手打ちと思われ、美味しかった。出汁に溶け込んだとろろがもったいないので全部飲み干し、お腹いっぱいになった。

浄心門からの 1 号路組の高橋雄のレポートはここまで。
以下吉松さんのレポートに続く・・

期待していた富士山は、生憎雲に覆われていて見ることはできなかった。
熊本さん持参のワインと、日本酒で良い気分になったところで下山を開始した。



11時10分
稻荷山コースを下山



急勾配の階段を用心しながら下った。
登るにはかなり体力を要するほどの勾配である。



途中、稲荷山展望台で小休止

以前は東屋があったらしいが、今は取り壊されて、僅かにベンチがあるだけになっている。



稲荷山コースはなだらかな尾根歩きコースだ。

本日がクリスマスだった所為か、登ってくる赤い帽子の一団とそれ違った。



12時37分

ケーブルカー駅に到着

4時間ほどのんびり登山であった。



高尾山温泉 極楽湯で汗を流した。

日曜祝日料金 1200円也

(地下1000mから湧き出る、アルカリ性単純温泉)

混んでいるかと思ったが、時間が早かった所為かガラガラ

60分ほど湯に浸かっていた。湯上がりには恒例の生ビール！



ほろ酔い加減になったところで、最後の集合写真に収まった。



朝方雨だったので足下のぬかるみなどを心配していましたが、登り始めた頃からは天気も回復てきてそれも杞憂に終わりました。

富士山を仰ぎ見ることが出来無かったのが一寸残念でした。しかし、こんなのんびりとした忘年登山は始めてかも知れません。ゆっくりと温泉に浸かることが出来て、一年の良い締めくくりとなりました。